

SYOHEI ニュース 令和5年7月号



「潜んでいる身近な病気 ～睡眠時無呼吸症候群～」

前沢診療所長 鈴木 順

こんにちは。今回はあなたの周囲にもいるかもしれない睡眠時無呼吸症候群

(Sleep Apnea Syndrome : SAS) についてお話しします。SASは上気道の閉塞による閉塞性睡眠時無呼吸症 (Obstructive Sleep Apnea : OSA) と中枢神経系の障害による中枢性睡眠時無呼吸症 (Central Sleep Apnea : CSA) に分類されます。日常臨床で遭遇するSAS患者の大多数はOSAです。SASは居眠り事故や高血圧症、糖尿病、心血管疾患と密接に関連しており、放置により死亡リスクを高める点でも重要な疾患です。しかし患者は自分の無呼吸に気づかないことが多く、いびき、日中の眠気などの症状や肥満症、小顎症などの身体的特徴から疾患を疑って検査を受けることが重要です。

前沢診療所では検査施設外睡眠検査 (Out of Center Sleep Testing : OCST) という自宅で行う簡易式睡眠検査を施行しています。日本では治療が必要とされる中等度以上のSAS患者が約900万人いると推測されています。当診療所のデータでも中等症以上 (1時間に15回以上の無呼吸・低呼吸) であった方が被検者の51%であり、そのうち重症 (同30回以上) は被検者の18%もいました。その方々は確定診断のため睡眠ポリグラフ検査 (PSG) が可能な医療施設に紹介しています。治療は生活指導、体重管理、CPAP (鼻マスク療法)、マウスピース療法などです。

患者の中には、身体がだるい、疲れやすい、頭が重い、めまいがするなど、いわゆる不定愁訴を訴えてくる方が少なくありません。

通常の一般検査をしても異常所見がないと「精神的なものでしょう」「ストレスが原因かも」と医師に言われて他院から前沢診療所に紹介されてくるのがよくあります。それらの患者さんの何名かには重症SASが隠れていました。そしてCPAP療法により症状は消失しました。朝の倦怠感、集中力低下、易怒性など患者の睡眠状態に関連した症状に着目しながら、注意深く病歴を聴取することはとても大切です。

奥州グルメ紹介「前沢牛」

「サーロインステーキ丼」 前沢牛の小形牧場直営の牛匠おがた駅東店

の平日ランチメニューです。スープサラダ付き！厳選された前沢牛の甘みと旨みを堪能して頂けます。



奥州市前沢向田1丁目22 電話 0197-56-7729

「霜降牛すき焼しゃぶしゃぶ」 銘牛の産地で、他に先がけて「日本の味」霜降牛すき焼しゃぶしゃぶを普及させた前沢牛の店「ささ忠」で

す。そのすき焼は関東式で、秘伝のタレとスープを別々にした独特のもので。奥州市水沢横町205 電話 0197-23-3611



大谷翔平選手の成績ボード (R5. 7. 26 現在)

打者 打率 299 本塁打 36 打点 77 盗塁 12
投手 勝利 8 敗戦 5 防御率 3.71 奪三振 148

『SYOHEI ニュース』は市医師養成事業関係者の情報紙です。
令和5年7月27日発行 奥州市医療局医師確保推進室
〒023-0053 奥州市水沢大手町3-1 TEL0197-25-3833
※ 奥州市医療局HPにバックナンバーを掲載しています。

奥州市の先人：太田幸五郎と「太幸邸だいこうてい」

Web 博物館・奥州市の先人：ぶらり奥州散歩道・広報おうしゅう平成 19 年 4 月号

お物見公園（前沢）の西隅に、大きな碑が建っています。

これは、奥州市前沢の出身で岩手県経済界の中心人物であった太田幸五郎^{おおたこうごろう}の業績を伝えるために建てられたものです。

幸五郎は、1868 年（明治元年）12 月、屋号「大幸家」の 5 代目として前沢に生まれました。盛岡銀行取締役、岩手農工銀行頭取を務めたほか、現岩手銀行の設立や北日本銀行の前進である岩手無尽株式会社設立の中心的役割を果たしました。また、地域住民の体育熱の向上に伴い、現在お物見公園となっている 3.8 畝余りをグラウンド用地として寄付したほか、前沢と衣川を結ぶ昭和国道開通にも尽力しました。

1910 年（明治 43 年）、幸五郎は住宅を新築しました。現在「太幸邸」とも呼ばれるこの建物は、当時、日露戦争の不況や大凶作によって生活に苦しんでいた地域住民を救うために建てられた。いわゆる、「お助け普請」というものです。

材料はすべて地元産を用い、大工、左官、建具職などでもできるだけ地元の人を雇い、工期と予算に限度を設けず、お金を地域に還元する方法をとりました。



幸五郎は、「太幸邸」の庭の造園にも地元産の樹木や庭石を用いるとともに莫大な費用をかけています。

その中でも、平泉の文化遺産である

「白鳥館」から移した梅の木は、運搬するために延べ 294 人の人夫がかかわり、食糧費なども含めるとたくさんのお金が使われています。

ここにも、お金を地域に還元し、苦しい生活をしている地域住民を救済する考えが伺えます。

「太幸邸」は、明治期の近代和風建築（1600 坪の敷地に 130 坪の主屋、前座敷、土蔵、門、塀、庭園がある）の民家として、平成 9 年に岩手県指定有形文化財第 1 号の指定を受けています。主屋は和風建築ながら、屋根構造や階段などに西洋の技法が取り入れられているのが特徴です。

終戦まで「太幸邸」には文化人らが滞在し、さながらサロンのようにあったこと。8 代目となる玲子さんは「当時の生活や文化が分かる活きた資料として地域に貢献していきたい。県外の研究者などもよく訪れるので、地元の人と文化面を中心とした交流の場になっていたらいいですね」と話します。この邸宅は今も（平成 19 年当時）地域の会合などに利用され、わたしたちに明治の香りを感じさせてくれます。

※ 令和 5 年の現在は、見学や部屋の利用は行われていません。

